

『グローバルなシステム上重要な銀行(G-SIB) — 評価枠組みの改訂』(2024年3月7日公表)の概要

- バーゼル委は、G-SIB枠組みにおける一部銀行のウィンドウ・ドレッシング(WD)行動(G-SIB選定に用いるデータの報告・開示に用いられる基準日付近でポジション等を調整することにより、一時的にシステム上の重要性に関する評価を引き下げようとする規制裁定行動)について、実証分析を行いつつ、対応の要否を検討してきた。
- 今般、G-SIB枠組みに起因するWD行動を抑制するための対応として、G-SIBスコアの計算に用いる一部指標を、現行の会計年度末値から、年間を通した平均値に変更することを提案する市中協議文書を公表(コメント期限: 2024年6月7日)。
- 市中協議は、主に以下の①~③の論点について、特定のオプションを決め打つことなく、複数のオプションに対する幅広い意見を求めるとともに、本提案の実施時期(④)について意見を求めている。

提案の概要(主な論点)

①平均頻度

バーゼル委が幅広い平均頻度(日次、月次、四半期末)^(注1)を検討していることを明示した上で、日次平均値の報告を求めることに利点があるとの考えを示しつつ、月次平均値や四半期末平均値を含めた幅広い頻度に関するフィードバックを求めている。

②対象指標

原則として総エクスポージャー、OTCデリバティブ想定元本、対外与信・債務の残高などの全てのストック指標^(注2)に高頻度の平均値の報告を提案しつつ、報告が特に困難な指標については、市中協議で提出された証拠を十分に考慮する(特定の指標に対してより低い頻度の平均値の報告を求める形に変更し得る)としている。

③対象銀行

G-SIB選定プロセスの対象となる全G-SIBサンプル行^(注3)を適用範囲とすることに利点があるとしつつ、適用範囲を限定する複数のオプションについてもフィードバックを求めている。

④実施時期

本改訂の実施日を2027年1月1日(2026年末基準のG-SIB選定から)、移行期間を2026年1月1日(2025年末基準の選定)からとすることを提案。移行期間中、平均値と年度末値の差が大きい(≒WD行動の可能性のある)銀行については、当局裁量により、G-SIBへの指定やバケットの引上げも検討。

(注1)より高頻度の平均値を使用することで、銀行のWD行動を抑制しやすくなる一方、銀行のデータ集計・報告コストは増加する。

(注2)G-SIB選定では、5つのカテゴリー(規模、相互関連性、代替可能性・金融インフラ、複雑性、クロスボーダーな活動)に関係する計13指標(うちストック指標は10指標)に基づいてG-SIBスコアを算出。

(注3)グローバルに活動する銀行のうち、総エクスポージャー2,000億ユーロ以上の先。

『銀行によるG-SIB枠組みのウィンドウ・ドレッシング: 定量的な影響度調査に基づく因果関係のエビデンス』の概要

- バーゼル委は、G-SIB枠組みがWD行動を誘引する直接的な要因になっているか実証分析を実施。今般、分析結果をまとめたワーキング・ペーパー(WP)を、市中協議文書の提案のエビデンスとして同時公表。
- G-SIB選定に参加する金融機関から徴求した四半期データをもとに、WD行動の程度を指数化し、G-SIBサーチャージ(G-SIBに対する追加資本賦課)導入とWD行動の変化との間の因果関係を分析。
- WPは、OTCデリバティブの想定元本のWD行動について、G-SIBサーチャージ導入との因果関係が確認されたと結論づけている。一方、レポ残高のWD行動ではG-SIBサーチャージ導入との明確な因果関係は確認されていない。

分析結果: G-SIB選定に参加する金融機関のWD行動の推移(2010年~2021年)

- ✓ 年度末の指標が前後の四半期末と比較して減少している割合を「WD行動指数」と定義。G-SIBスコアの水準に応じて、より高いサーチャージが適用される上位バケットの閾値直下の銀行(赤線)と、その他の銀行(青線)別にWD行動の程度を分析。
- ✓ OTCデリバティブ想定元本のWD行動指数(左グラフ)をみると、2016年のG-SIBサーチャージ導入以降、閾値直下の銀行(赤線)のWD行動指数が、その他の銀行(青線)よりも大きく上昇。回帰分析の結果なども踏まえ、G-SIB枠組みがWD行動のインセンティブを与えていると結論づけている。
- ✓ レポ残高(右グラフ)に関しては、G-SIBサーチャージ導入以降、その他の銀行(青線)と比べて、閾値直下の銀行(赤線)による顕著なWD行動の拡大は確認されず、G-SIB枠組みに起因するWD行動は統計的に裏付けられなかったとしている。

OTCデリバティブ想定元本のWD行動指数

G-SIBサーチャージ
適用開始

Per cent



レポ残高のWD行動指数

G-SIBサーチャージ
適用開始

Per cent

